

昭和興産インドネシア



矢尾 智 社長

昭和興産インドネシア(矢尾智社長)は、界面活性剤、塗料原料、エレクトロニクス関連など主力の輸入事業の強化に加え、輸出事業では樹脂のトレードなど事業の幅を積極的に広げている。今後、上海やタイなどグループ拠点との連携を一段と深め、新たなビジネス深耕につなげていく。

天然樹脂など輸出を拡大

昨年からの開始。グループ拠点を通じて中国での拡販を進めている。タマール樹脂は塗料やインキの原料などに用いられ、耐熱性も高いことから家具などへのコーティングに需要が伸びている。同社ではこれに続き、天然ゴムやラテックスなど現地ならではの商材を発掘し、輸出事業の拡大に結びつけていく考え。

アジアのグループ拠点との連携も強化・拡大中。硫酸、バリウムやサリチル酸など中国産の無機化学品を上海拠点を通じて輸入するなど実績を築きつつあり、新規開拓を積極的に進めている。また、タイ拠点で大日化学工業およびフォルモサ・オーガニック・ケミカルとの3社協業により生産を始めた金属石けんについても、インドネシアでサンブルワークを進めるなど、グループ拠点の連携により新ビジネスの開拓を加速する。